

令和7年度第2回定例会（2025年6月）での質問内容です（Q：やしきだ区議の質疑 A：行政側答弁）

① 新庁舎整備・民泊・きっずクラブについて



A

Q

業務効率化と職員の負担軽減

A

Q

きっずクラブの処遇改善

A

Q

民泊について

A

Q

新庁舎整備

教育長 きっずクラブの質向上には業務効率化と負担軽減が重要。区は令和7年度に電子連絡帳、8・9年度に入会申請の電子化を進め、受付や書類確認の負担を減らす。これにより職員が子どもと向き合う時間を確保、保護者の利便性も高める。

やしきだ きっずクラブは人員不足の中で事務作業が多く、連絡帳や入会受付は特に煩雑と聞く。業務効率化と職員負担軽減に向けた今後の取組方針を伺う。

教育長 ご提案の事業は、経験年数に応じた賃金改善を行う事業者への補助で、処遇改善効果が期待される。ヒアリング結果を踏まえ、今後実施を検討する。

やしきだ 令和7年度当初予算で人件費単価が増額されましたが、職員の質向上のためにも更なる処遇改善が必要。支援員のキャリアアップ事業等について、見解を伺う。

江東区長 地域からの声に速やかに対応し、事業者への指導を行っている。しかし生活環境悪化の事案も増加しており、対応を早急に進める。

やしきだ 2020年東京オリンピックに向けて宿泊施設の不足解消のために旅館業法施行例の一部改正、住宅宿泊事業法の施行がなされ、現在では250近くの施設が所在している。

江東区長 現庁舎周辺の公共施設も含め、老朽化や集約の有効性を調査中。新庁舎のスペースを有効活用し、コストも考慮して基本計画に反映する。

やしきだ 我が会派は、保健所機能は本庁舎に備えるべきと主張してきた。公共施設の集約化について、区の見解を伺う。



② スポーツ施設の施策について



A

Q

無料巡回バス

A

Q

駐車場の足りないスポーツ施設への対応

A

Q

官民連携の在り方

A

Q

有明スポーツセンター

やしきだ 無料巡回バスの始発は大会の開始時刻に間に合わない等、現状に合わせた時刻の見直しを。例えば、新砂運動場行き無料巡回バスは、始発が9時35分発で、多くの大会開始時刻に間に合わない。地域振興部長 増便によって混雑の緩和が図れるが、運転手の人員不足や労働時間の規制等の課題も慎重に検討を進める。

やしきだ 周辺の都有地を活用し、都区で駐車場拡充を検討すべき。



地域振興部長 有明スポーツセンターに求められる機能について、官民連携による役割分担も選択肢に入れながら、検討を進める。

やしきだ 有明スポーツセンターは港区在住者の利用が多く、民間施設も充実している。プールやトレーニングルームなど、官民連携での活用・運用も選択肢に入れるべきではないか。

地域振興部長 有明スポーツセンターは港区在住者の利用が多く、民間施設も充実している。プールやトレーニングルームなど、官民連携での活用・運用も選択肢に入れるべきではないか。

やしきだ 有明スポーツセンターの改修計画についての検討状況は。

3

令和6年度決算審査特別委員会
質問内容（2025年9月10日）

<教育費>

あやかは考える

近視による目の健康の課題

2022年、文科省は全国の約8600人の小中学生を対象の「近視実態調査」の結果を発表。小学6年生の2割、中学3年生の3割が裸眼視力0.3未満という衝撃的な結果が。ICT化により子どもたちの授業環境は便利になった一方で、視力に悪影響を与える事も懸念されている。目の健康や目を大切にする取り組みを今以上に区内全域の学校で行うべき。



Q

学校によって目の健康教育に差がある。区の学校全体で目の健康教育を強化すべき。

A

各学校の主体性を生かしつつ、効果的な取り組みや有益な情報について養護教諭会や学校保健会を通じて共有する。

<教育費>

あやかは考える

紫外線による目の健康の課題

WHOは生涯の紫外線の半分以上を18歳までに浴びると発表しており、若い世代における早期対策が重要とされる。紫外線の影響により失明原因1位の白内障の進行を進めること、角膜の炎症による自律神経のバランス悪化で交感神経の活性化や疲労感が現れるとも指摘されている。目の保護の為、全国の公立学校でもサングラス着用の検討が始まった。



Q

サングラス着用による目の健康の重要性と、着用を禁止していない事を周知すべき。

A

着用によって視界が狭まるおそれもあり、安全にも配慮が必要。目の健康に向けた他の取組と同様に学校にも紹介する。

石川県輪島市、富山県射水市の視察



2025年7月下旬、会派の執行部で視察へ。能登半島地震で被害を受けてから約1年半。まだまだ被災地の復興は遅れていて、現場のご苦労が伺えました。当時の状況を含め様々なお話を伺いながら、復興まちづくり計画、災害廃棄物に関連する説明や課題、取り組みを伺いました。

11月上旬に会派で世田谷区に視察へ

「学校給食における有機農産物の活用について」のヒアリングに行って参りました。

東京都内でも先進的に取り組んでいらっしゃる世田谷区の教育委員会に導入の背景や課題、仕組み等をお伺いしました。新たな視点等のヒントや気づきを頂きました。会派として、本区の子どもの未来に繋がるような提案が出来たらと思います。



足立区の災害備蓄管理の包括体制を視察



9月上旬に会派で足立区の災害備蓄管理の包括体制について視察に行って参りました。これまでは行政の職員のみで管理していましたが、様々な課題が浮き彫りになったことから、行政と民間で連携した管理包括体制をとっているとのことでした。本区でも共通の課題認識があったことから、決算委員会で質問に取り上げました。

江東区防災アプリ

災害時の情報が一元管理されており、天気・交通情報など普段使いできる防災アプリ。ぜひご活用ください！



特養老人ホーム「(仮称)タムスさくらの杜亀戸」の施設視察



所属する医療・介護・高齢者支援特別委員会の委員として10月中旬に、江東区内16番目の特別養護老人ホーム「(仮称)タムスさくらの杜亀戸」の施設視察へ。

15番目の特養が出来てから、約9年ぶりに亀戸に新たな特養ホームが出来ました。整備を進めるには場所の確保や工事費高騰など、この時代の様々な課題はありますが、区民の皆様が高齢になっても住み続けられる町、江東区を目指しながら、引き続き取り組みを進めていけたらと思います。



令和6年度決算審査特別委員会 質問内容(2025.9月~10月)

あやかの想い
子育て支援に力を入れている街とは子どもが欲しいと願っている女性に対して優しい街であるべき。子どもが欲しいと望むご家庭にお子さんが授けられ、それは少子化対策にも繋がります。妊活は女性も男性も精神的な負担が大きいですが、でも皆、子どもが欲しい一心でそれを乗り越えようとしています。精神的な負担はサポート出来なくても、経済的な負担の軽減を行政として行うことで、妊活に励んでいるご家族も応援する江東区であって欲しい。



A Q 特定不妊治療
やしきだ 本区も不妊治療に対して独自の取り組みを進めて、妊活女性や家庭への負担軽減を図るべき。調整担当課長 今後、対象や回数等の範囲が広がれるか等、国の動向を注視していきたい。

A Q 産後ケア
やしきだ 宿泊型、訪問型、乳房ケアなどのケアメニューを一括で管理し、利用者が上限回数内で自由に選べるクーポンの導入を検討すべき。調整担当課長 今は導入予定はないが、今後も対象者の利用状況や要望を把握する。

あやかの考え
行政職員の対応のみでは、専門的な知識が不十分であるが、備蓄物資の調達や倉庫内のスペースの活用が適正では無いなどの課題が全国で浮き彫りに。また災害時は協力協定を締結している事業者が避難所への物資運搬を依頼することとなっているが、運搬業務を担っていない為、物資輸送先施設へのルートが初見となり、確実性に欠けていたなども課題となっている。今こそ真に区民の為に機能する仕組みへと変えるべき。

A Q 備蓄物資整備事業
やしきだ 官民連携の備蓄物資包括体制を区でも構築すべき。防災計画課長 物資輸送拠点から避難所までの輸送が混乱し、被災者に支援物資が届かないなどの課題(ラストワンマイル問題)が顕在化し、国等においても議論が進んでいる。一層の専門性や確実性、迅速性、デジタル活用が必要であり、総合管理体制の構築に向けて検討を進める。

やしきだ綾香 プロフィール

- ★ 1985年南砂生まれ、現在東砂在住。一児の母。
- ★ 江東めぐみ幼稚園、第三砂町小・中、都立東高文京学院大学(人間学部保育学科)卒業。
- ★ 保育士(2008年3月東京都知事認証)

- ★ 2015年 江東区議会議員 初当選 現在3期目【江東区議会】
- ★ 企画総務委員会 委員長
- ★ 医療・介護・高齢者支援特別委員会 委員
- ★ 手話推進議員連盟 世話人

